

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7		
自己評価作成日	平成27年 9月 29日	評価結果市町村受理日	平成28年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372100974-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、国道4号線から少し外れた場所にあり、車の通りが少ない静かな場所に位置しています。周囲は田園や姫神山などが一望出来て、一年を通して四季の移り変わりが感じられる、昔から変わらない田舎の風景が残っている所です。理念にも掲げている様に職員と入居者が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心掛け、常に入居者の方々が自分らしく生活出来るよう、1人ひとりの不安やニーズを把握し決め細やかに対応する事で穏やかに過ごせるよう努めています。農繁期時期には野菜作りや花植え、草取りが出来る場所も有ります。また、母体が医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と訪問看護など医療の支援があり、健康管理が充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所(グループホームきらら)は、静かな田園地帯に位置し、季節の移り変わりを直に感じ取ることが出来る良好な立地条件に恵まれた場所にある。事業所内部は大きなガラス戸を通して採光が良く、明るい。ウッドデッキや小上がりの畳スペースは、利用者が自由に寛げる場となっている。各居室は外に面しているため、日毎に変化する農作業の状況や目に入る自然の動きは利用者の五感を刺激することが出来る。室内の洗面台や利用者2名に1ヶ所の割合で整備されたトイレは、利用者への気遣い・配慮としてうかがうことができる。職員は、理念に基づいて、利用者との壁を作らず、管理せず、自分らしく自由に生き生きとした生活を送ることを念頭に、家庭の延長を意識した丁寧な支援に努めている。また、将来的に、質の良いサービス提供を目指し、専門資格取得のために研鑽したい旨の話が聞かれた。職員間の雰囲気も良く、良好なチームワークにより適切な支援が展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつでも見れる場所に掲示している。職員が壁を作らず共に過ごすことを、常に心掛けている。	指導者の態度になりがちだが、利用者と同じ視線で、話しかけやすい態度で、プライドを傷つけない言葉かけをすること、不適切な行為には、ミーティングでワンポイントアドバイスをするなど、理念を常に意識してサービスを提供するよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町で行っている花いっぱい運動の花植えを施設の花壇を使い地域の方々と一緒に行ったり、体育祭や文化祭に招待され交流している。	事業所で自治会に加入し総会に参加したり、回覧板により地域の情報を得ている。地域の行事として、花いっぱい運動や体育祭・文化祭に作品展示で参加している。小学校の学習発表会に招待を受けて見学に出かけたり、例年、中学生の「職場体験」を受け入れ、接し方等を体験し、事業所の理解にも繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方との関わり方を相談されたり、地域の中学校の職場体験の場として受け入れを続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年実施した花植えも昨年の運営推進会議にて提案させて頂き実現したものであり、他にも入居者の外出先や交流場所などの情報の提供を頂いたり、招待頂いたりサービス向上に活かされている。	運営推進会議に、地区の消防団長や婦人部の協力隊、町の保健師から感染予防の講話を受ける等、ゲストとして参加して貰っている。委員から、地域の行事等の情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	待機者の状況であったり、申し込みの相談などを受けている。また、運営推進会議にも出席いただき事業所の取り組みや状況を伝えている。	運営推進会議には、町包括支援センターの室長が参加しており、待機者の状況等情報を得たり、協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない為に、職員間で常に情報共有し対応を検討する事で、拘束を行わないケアに努めている。又、施錠も日中はせず玄関も出入り自由になっている。	身体拘束について、勉強会をしている。言葉による拘束について、「ちょっと待って」「だめ」「頭ごなしの口調」等、気づいた時に注意したり、ミーティングで話し合い、工夫しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで、虐待について学ぶ機会を持つと共に普段の悩み、困り事やケア方法についてオープンに相談出来る、職場環境づくりに努めて防止に努めている。又、経営者を交えての虐待防止についての話し合いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどを活用し制度の勉強会を行っているが、現在対象者が居ない為、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、説明し理解を得ているが、不明な点がある場合は、十分な説明を行い理解・納得頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行う事で、不明な点や要望を伺う機会を持ち、毎月の連絡や通信に反映させ改善に努めている。	家族アンケートを実施し、食事を見る機会がないという意見で、月1回発行しているホームの通信に、食事の写真を掲載した。また、通信により、利用者一人ひとりの状態を、お知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の部署ミーティングを行っており、その内容を同じく月に1度の運営会議に報告している。	月1回の部署ごとの会議で職員から出された意見について、法人の運営会議に報告している。緊急を要することは、管理者の判断で反映させている。希望には、出来るだけ対応し、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告を元に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して法人、グループホーム協会、施設、自治体の研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に加入し、相互に交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査や本人の話を傾聴することにより、寄り添った関わりを持ち、話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言葉で聞き取る事だけではなく、表情などからも気持ちを汲み取り、対応出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から、良くお話を聞き取り適切に対応出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも有るように、職員が壁を作らずに互いに教えあったり、手伝ったりし同士として暮らせるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月現在の状況について報告書を送付し、家族の方とも情報を共有しながら、共に本人を支えていく関係を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やお祭りなどに出来るだけ参加するようにしている。又、自宅周辺への外出や家族と結婚式に出席したり、手紙や年賀状を出したりなど支援している。	孫の結婚式に出席し、「緊張した、良かった」と言って、帰って来て孫に手紙を出したりといった、家族との関係を支援している。兄弟や近所の方が訪ねてきて、職員がお茶をだし、お部屋で過ごされている。自治会長の勧めで「菊の会」に加入し、鑑賞菊を育てている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上手くコミュニケーションが取れない場合があるが、職員が間に入ることにより、良好な関係が取れるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との馴染みの関係を継続出来るよう心掛けている。また、外出先で会った時も気軽に声を掛け合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から本人の希望や思いを汲み取るよう努めている。その内容を職員間で共有し検討している。	日々の利用者の言葉や気付きを朝晩のミーティングで報告し、連絡ノートに記載して全員で共有している。自宅を見たい、墓を見たいといった言葉を聞きとめ、自宅の周りを見に行き帰って来てから落ち着いた、という例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報に加え、本人との会話の中からも情報収集出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人ひとりとの時間を大切にし、自然な状態の中で心身の状態や有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位を前提とし、本人・家族からの希望や意向を聞き、アセスメントを行い、計画担当者や介護職員の意見をまとめて作成している。	利用者を、職員2名ペアで3名担当している。担当者会議で、介護計画の評価を行い、意見やアイデアをケアマネジャーがまとめて、介護計画を作成している。会議には、家族も参加している。利用者に計画を説明し、署名をしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録へ記入するだけでなく、特別な事項については毎日の申し送りなどで、確実に情報を共有し実践や計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り家と同じ生活が継続出来、自分らしく生活してもらえるように努めている。又、色々なニーズにも柔軟に対応出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が住んでいた場所に出かけてみたり、踊りや読み聞かせのボランティアの受け入れを楽しんで頂いている。又、読書の好きな方には、地域の図書館へ職員と一緒に出掛け、自分で選べるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、日々連絡を取り合い、適切な医療を受けられる体制を取っている。	眼科等の専門医や歯科医院の通院は、頻度も多く、職員が付き添っている。協力病院がかかりつけ医の方は、月2回往診して貰っている。また、週1回訪問看護を導入し、健康状態の相談や助言を得ている。診察等の結果は、毎月のお知らせで伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としては看護師の配置は無いが、週1回看護師の訪問があり、その時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の不安を解消し、安心して治療出来るように、情報交換を密に行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りの指針を作成し、健康状態・家族の意思を含め、柔軟な対応が可能となるよう協議できる態勢にある。	看取りの指針を作成している。重度化した場合、本人や家族の希望を聞き、対応している。転倒骨折し、入院し、車椅子が必要な状態だったが、本人がホームに戻りたいと退院し、日常生活がリハビリにもなり、現在は歩けるようになり、介護度が良くなった例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料により学習している。加えて避難訓練の時などに消防署より実技指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施し、全職員が行動概要を把握出来るよう努めている。又、年2回の総合避難訓練の時は、消防職員・消防団・近隣の方々に参加して頂き、協力体制を築いている。	災害時の対応マニュアルを作成している。毎月避難訓練を実施し、年2回の総合避難訓練時には、消防職員・消防団・近隣の方々が参加している。夜間については、実際の訓練を予定している。日用品等の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時において最小限の介助にて対応し、声掛け時の声の大きさも1人ひとりに合わせて対応するように努めている。尊敬すべき年長者である事を、念頭に置き敬意を忘れない対応を心掛けている。	利用者には、名字で声掛けするが、同じ名字の場合名前で呼んでいる。言葉遣いは、命令的口調にならないよう心がけている。個々の状態に合わせて、最小限の介助をし、自立を支援している。職員はグループホーム協会主催によるプライバシーに関する研修に参加する等、人権尊重の周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望を汲み取れるように、言葉だけでなく表情や仕草などにも留意し対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員からの押し付けにならないように、心掛けながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者から希望があれば、化粧品や服、帽子などの買い物に出掛けたり、毛染めの補助をしたり気兼ねなく楽しめるよう支援している。服装に関しては、季節に合った服が着られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れた献立を作成し、それを元と一緒に買い物や調理を行っている。又、入居者が畑から野菜を採って来て、「食べたい」と希望があれば柔軟に対応出来るよう心掛けている。	食事は、職員が利用者と献立を考え、畑の野菜を使ったり、一緒に買い物し調理している。利用者は、食材の皮むきやカットをしたり、テーブルの片付けをしたりしている。誕生日は、本人の希望を聞いて献立に取り入れている。栄養面については、法人の栄養士の指導を得ている。ドライブを兼ねて、外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を、法人の栄養士にチェックしてもらい助言、指導を受けている。又、身体機能や好み、薬の事情などに応じて適宜変更し、楽しく食事が出来るように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けし適宜介助をしている。週2回は義歯洗浄剤を使用して、消毒洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの行動パターンや身体レベルに合わせ、誘導や介助を行っている。基本的にはトイレでの排泄、排泄動作の自立にむけて支援している。	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。トイレは2部屋に1か所計5か所配置し、部屋を出るとトイレがあり、便利である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医からの指導を受け、危険性について職員共通の認識を持って取り組んでいる。毎日の運動や食物繊維、水分摂取などに気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回入浴できる日を設定しているが、それ以外の日でも希望によって対応出来る様にしている。又、その時の1人ひとりの状態に応じて、足浴や清拭も行っている。	入浴は週3回としているが、必要時は入浴出来るようにしている。入りたくないという方には、午前と午後を替えたり、「足、冷たいから」と、足浴に誘い入浴できたり、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れの中で、それぞれが自然に過ごせるように努めているが、閉じこもりにも留意し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの情報や薬局からの薬事情報を確認し、職員間で回覧し情報の共有と理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯たたみなど、1人ひとりにあった活動を、ある程度任せる事で、役割を持ち張り合いのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、希望に沿って外出できるように支援している。	玄関前の庭を自由に出入りし、花壇の枯れた花をつまんだり、できることを役割にしている。周囲の散歩では、栗拾いをしたり、八幡平に紅葉ドライブし道の駅ではラーメンを食べたり、季節を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の買い物の時や行事にて外出する際などに、買い物の機会を設けている。又、1人ひとりに合った援助にてトラブルにならないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	結婚する孫への手紙や年賀状を書いたり、贈り物のお礼の電話の取次ぎをするなど、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで育てた花や、みんなで作った作品を飾るなど、穏やかで居心地の良い場所になるように心掛けている。	共有のホールの壁には、利用者の作品が飾られ、テーブルには庭で育てた花が置かれている。壁で仕切られた畳の小上がりがあったり、ソファ、テレビを配置し、それぞれお気に入りの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周囲から四角になるスペース2箇所(畳の子上がり)、ウッドデッキなどで入居者同士で、色々な話をしながら過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや私物は自由に持ち込める為、仏壇やハンガーラックなどを置いている方も居る。本人の希望を活かしながら、安全に配慮しながら対応している。	タンスとベッド、洗面台が備え付けである。寝具はレンタルで、週1回りネン交換をしている。居室には、家族の写真や作品を飾ったり、仏壇やハンガーラックを置いている方もいる。整理・整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっていて、安全に動ける設計になっている。各居室やトイレにはわかりやすい位置にプレートを設置している。		